

かい　　ぎ　　ろく
会　　議　　録

かいぎ　めいしょう 会議の名称	へいせい　ねんど　だい　かいこまきしたぶん　かきょうせいきょうぎかい 平成２４年度　第２回小牧市多文化共生協議会について				
かいさいにちじ 開催日時	へいせい　ねん　がつ　にち　すい　　じ　　ぶん　　じ　　ぶん 平成２４年９月２６日（水）　１８時３０分～２０時００分				
かいさいばしょ 開催場所	ほんちょうしゃ　かい　　かいぎしつ 本庁舎４階４０４会議室				
しゅつせきしゃ　およ 出席者　及 けつせきしゃ 欠席者	しゅつせきしゃ ○出席者 【委員】 こじま　いいん　ふじかど　いいん　さいれんじ　いいん　みやた　いいん　つぼや　いいん 小島委員、藤門委員、西連寺委員、宮田委員、坪谷委員、 ひが　いいん　おおしま　いいん　さとう　いいん　ちん　いいん　たから　いいん 比嘉委員、大島委員、佐藤委員、陳委員、高良委員、 ごとう　いいん　すずき　いいん　こまきけいさつしよ　たかはし　いいん　こまきしこくさい 後藤委員、鈴木委員（小牧警察署）、高橋委員（小牧市国際 こうりゅうきょうかい　さくら　いいん　しみんさんぎょうぶ　じちよう 交流協会）、櫻井委員（市民産業部次長） 【事務局】 はやしせい　かつこうりゅうかちよう　むらた　せい　かつこうりゅう　か　ちよう　ほ　さ　　がんだう　し　ゆ　さ 林生活交流課長、村田生活交流課長補佐、丸藤主査 【危機管理課】　みし　な　か　かり　ちよう 三品係長				
ぼうちょう　か　ひ 傍聴の可否	☒ 可 ☐ 否	ぼうちょうていいん 傍聴定員	１０	ぼうちょうにんずう 傍聴人数	１
かいぎしだい 会議次第	かいかい １　開会 ２　あいさつ ない　　よう ３　内　　容 こまきしたぶんかきょうせいすいしん　ぶ　ら　ん （１）小牧市多文化共生推進プラン 「めざすこと①一人ひとりの防災対策が１００点のまち にします。」について た ４　その他				
といあわ　さき 問合せ先	こまき　し　やくしよ　　しみんさんぎょうぶ　　せいかつこうりゅうか　　こうりゅうがかり 小牧市役所　市民産業部　生活交流課　交流係				
かいぎ　ないよう 会議内容	べっし　さんしょう 別紙１参照				

ぜんぶきろく　　ようてんきろく
☐ 全部記録　　☒ 要点記録

かい 会	ぎ 議	ない 内	よう 容
1. かいかい 開会 しみんけんしょうしょうわ 市民憲章唱和 2. あいさつ あいさつ いいんちよう 委員長よりあいさつ 3. ないよう 内容 (1) こまきしたぶんかきょうせいすいしんぷらん 小牧市多文化共生推進プラン 「めざすこと①一人ひとりの防災対策が100点のまちにします。」について いいんちよう (委員長) じむきよく　　こんかい　　て　　ま　　せつめい　　ねが 事務局より、今回のテーマについて説明をお願いしたい。 じむきよく (事務局) きょう　　いいん　　こまきしたぶんかきょうせいすいしんぷらん 今日は、委員のみなさんに小牧市多文化共生推進プランで「めざすこと」 のひとつとして位置づけたぼうさいたいさくについて、話し合っていたきたい。 3. 1 1 ひがしにほんだいいんさい　　けいけん　　いま　　じゅうよう　　もんだい 東日本大震災を経験した今、とても重要な問題であることは きょうつう　　にんしき　　おも　　ぶん　　しやくしよ　　じちかい 共通の認識であると思う。このプランでも、市役所だけではなく、自治会 や企業、外国人市民みんなできょうりよく　　ぼうさいたいさく　　と　　く 協力しながら防災対策に取り組むことにな っている。 し　　さだ　　ちいき　　ぼうさいけいかく　　がいこくじんしみん　　さいがいじょうえんごしや　　い　　ち 市の定める地域防災計画では、外国人市民は、災害時要援護者と位置づ けられている。がいこくじんしみん　　さいがいじやくしや　　ふだん　　なに 外国人市民を災害弱者にしないために普段から何をしな ければならないのか。みなさんと一緒に考えたいと思う。 きょう　　ききかんりか　　しよくいん　　き　　こまき　　ぼうさい　　さいしよ 今日は、危機管理課の職員に来てもらったので、小牧の防災について最初 にせつめい 説明していただく。 き　　き　　かんりか (危機管理課) きょう　　ぼうさい　　かんたん　　はなし 今日は、防災について簡単にお話をさせていただきます。 さいしよ　　さいがい　　ひなん　　おお　　じしん　　ひなん　　ふうう 最初に災害による避難といっても大きな地震による避難と風雨による ひなん　　しゅるい　　はな　　おも　　じしん　　ばあい 避難の2種類があることをお話ししたいと思う。地震は、場合によって ひなん　　ちようきかん　　いっぽう　　ふうう　　とく　　こまきし は避難が長期間になることがある。一方、風雨については、特に小牧市の ばあい　　ちけいてき　　ぜんいきてき　　すいがい　　かんが　　たんきかん　　ひなん 場合は、地形的に全域的な水害になることは考えにくく、短期間の避難			

が想定される。避難が長期に及んだ場合、食料、水をはじめとしてどれぐらの生活物資を準備しておく必要があるかであるが、他の地域からの支援は、届くまで3日間かかるといわれている。市としても、最大限、災害に備えるが、個々で最低限3日分の食料、水を準備してほしい。災害が起これば、市は24時間体制で参集し、市民の生命、財産を守る体制をとっているが、普段から防災について考え、備えておくことは、大事なことである。

いいんちょう (委員長)

それでは、今お話しをしていただいたことも踏まえ、外国人市民が災害弱者にならないためにはどうすればいいのか。想定される問題を外国人市民の立場、日本人市民の立場、企業の立場などそれぞれの視点にたって洗い出し、どうすればよいのか話し合ってもらいたい。

～グループワーク テーマ：外国人市民が災害弱者にならないために
→4グループに分かれて自由に意見交換。

はっぴょう →発表

- ・避難所のルールがわからない。
- ・文化的な違いがあり、一緒に避難できるか不安。
- ・マンションに住んでいるが、耐震状況がわからないから不安。
- ・どこに避難すればよいかわからない。
- ・避難するときのマニュアル（外国語）がない。
- ルールやマニュアルを多言語でつくっては。
- ・外国語で情報が伝わる仕組みがないのでは。
- ボランティアのネットワークの活用
- 日本語ができない外国人のためにボランティアをやりたい。
- ・外国人市民の防災訓練を実施してほしい。
- ・災害時における家族との連絡方法がわからない。
- 携帯電話の掲示板機能を利用するとよい。
- ・常に笛をもっていると、声が出ないときでも助かる。
- ・災害情報のメールサービスは、外国語版はないのか。
- ・避難した場合のトイレが不安。

- ・ 日本人と外国人は防災についての意識が違う。
→啓発活動が必要。

など

4. その他

- ・ 今日いただいた意見等は、地域防災計画や初動体制マニュアルなどの参考^{さんこう}にさせていただきます。
- ・ 次回の日程は、決まり次第^{きさだい}通知させていただきます。